
ア・ウルフ・アット・ザ・ドア

三上恵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ア・ウルフ・アット・ザ・ドア

【Zコード】

N2472M

【作者名】

三上恵

【あらすじ】

オオカミ退治のお話です。

乗車（前書き）

マイペースに連載していただきたいと思います。

「満員じゃなきゃダメだ」

つい普段通りの時間に出るところだった。

「満員電車じゃなきゃダメだ」

その方が都合がいい。向こうだつてそうに違いない。
もう一度自分の部屋に戻り計画を確認する。

何も問題ない。そもそも難しいコトなんかひとつもないんだ。

「落ち着いて、冷静に」何度も自分に言い聞かせる。

「ただのヒマ潰しだ」

1時間ほど部屋で時間を潰し家を出る。

黒縁メガネに、野球帽。

激安ジーンズが売りの、某ファストファッショングランジのTシャツ。

高校時代、部活で使つていたランニングショーズにカーボパンツ。
とてもお洒落とは言い難いが、動きやすいのにこしたことはない。

普段なら避けている出勤ラッシュ。最も混雑する時間帯。

改札を通る人や駅員、売店の店員、誰もがいつになく緊張した面持ちで僕を見ている。

実際のところ、僕のことを見ている人なんかほとんどいないだろう。
けれどそう感じる。

「みんなが僕のことを見張つていて」それでいい。

約1年振りに隣駅までの1番安い切符を買う。今日は定期券は使わない。

「僕という人間」は今日電車に乗らない方がいい。

10分後、3番線に東京方面行の電車が入ってくる。

予想通りの混み具合。この駅で間違いなく満員になるだろ？。

僕が乗るのは最後尾から2番目の車両。女性専用車両の一つ手前だ。機械のようなアナウンスが流れドアが開くと、一斉に人が車内になだれ込む。

降りる人は一人もいない。この町に用がある人間なんていない。

僕は雪崩が収まるのを待ち、ドアが閉まる直前にゆっくりと乗り込む。

ドアの目の前に立ち、ガラスに映る沢山の無表情な顔を一つ一つ確認する。

外を眺めている人、新聞を読んでいる人、目を瞑り音楽を聴いている人。

そして最後に、最も手前にいる黒縁メガネを見つめる。

ひとつ深呼吸。

「さあケイちゃん、まずは落ち着いて獲物を探そう」

ゆっくりと周りを見渡す。

「女子高生か？」隣の車両に乗り遅れたのがいるだろ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2472m/>

ア・ウルフ・アット・ザ・ドア

2010年10月10日04時50分発行